

効果としては、今いる従業員が離れていかない、ということがあります。今は転職が活発ですので簡単に転職してしまいます。福利厚生により、エンゲージメント（満足度）が向上し、人材が定着し生産性があがっていくという好循環になります。

ベストセラー「未来の年表」からの抜粋ですが、

2020年には尿1滴からガンを発見できる「線虫」が実用化されています。精度が高く、健康診断に取り入れている企業もあります。今の人たちが年を重ねることは事実ですから、2025年には団塊の世代が75歳に突入や、2026年には認知症の人が700万人を突破など、目に見える形で起こってきます。ので、それに対応した備えが必要となります。**人的資本経営に向けた取り組みとして、**

第一生命には従業員のために医療保険や三大疾病に備えた保険を会社が福利厚生としてサポートする保険があります。月額一人500円位で保障がつくものもあり、人気です。また、ベネフィット・ワンという福利厚生向けのプログラムを全国展開している会社を買収する方向でいます。これは保険に加入するところから健康にいいサービスを受けられるようになります。

また、福利厚生の一環で提携する店舗での割引も受けられるようになります。

**これからおきることとして**

相続税が増税になるのでは、や消費税が増税になるなど、これから起こりうることを念頭に入れて、会社が従業

員の皆をサポートすることがいわゆる人的投資に繋がります。

今後の日本の課題は少子高齢化ですが、1960年頃は所得の5%位が税金だったのが、今は26%位税金を払っていることになります。特に国民年金は負担が増加していますが、それを企業が負担してくれれば就活生にアピールできます。

どうやってサポートするかというと、NISAは個人ですからできませんが、iDeCoであれば会社でもサポート出来ますし、お金をかけなくてもライフプラン教育など研修をしてあげるのでもいいと思います。

（「サッポロビール」キャンペーンに応募をよろしくお願いいたします。）

会社を通して皆さんにお役に立てることがあれば、ロータリークラブで活動している甲斐があるのかなと思います。